



## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 2</b> <b>排他的経済水域 (EEZ)</b>	排他的経済水域 (EEZ) は、沿岸から200海里までの範囲で設定され、その国が資源に対する権利を持つ海域です。これに対し、海岸から12海里以内の範囲は領海と呼ばれ、その国の主権が及びます。日本は四方を海に囲まれているため、国土面積は約38万平方キロメートルと限られている一方で、この排他的経済水域は世界でも有数の広さを誇っています。
問2	<b>答え 3</b> <b>1,000m</b>	地形図における実際の距離を求めるには、図上の距離に縮尺の分母 (逆数) をかけます。縮尺が2万5千分の1の場合、図上の1cmは実際には25,000cmであることを意味するため、 $4\text{cm} \times 25,000 = 100,000\text{cm}$ となります。100cmが1mであることから、100,000cmをメートルに換算すると1,000m (1km) が導き出されます。地形図上で計算されるこの距離は、斜面の長さではなく水平距離である点も重要です。
問3	<b>答え 2</b> <b>2.25km</b>	2万5千分の1の地形図において、地図上の1cmは実距離で25,000cm (=250m) に相当します。地図上で9cmの距離がある場合、250mを9倍した2,250mが実際の距離となります。これをキロメートルに換算すると2.25kmとなるため、計算ミスや単位の変換に注意して算出する必要があります。
問4	<b>答え 1</b> <b>官庁街が駅から離れた川の東側に位置しているのは、江戸時代の城下町などの歴史的背景が関係しているのではないか。</b>	地形図から「駅と官庁街が離れている」「特定の場所に官公庁が集まっている」といった特徴を読み取った際、その理由を過去の土地利用 (城下町の構造など) に求めるのは、地域調査における有力な仮説の一つです。このように、地図から得られた事実に「なぜそうなっているのか」という疑問を持ち、根拠のある推測を立てることが、その後のフィールドワークや文献調査の指針となります。
問5	<b>答え 1</b> <b>択捉島</b>	日本の領土の四端のうち、北の端に位置するのが択捉島です。北方領土を構成する島々 (択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島) の中で最も北東側に位置しており、面積も最大です。なお、現在この地域はロシア連邦によって不法に占拠されており、日本政府は解決に向けた返還交渉を続けています。
問6	<b>答え 1</b> <b>四方を海に囲まれた島国であり、南北に長く連なる列島や各地に点在する離島を基点として水域が設定されているため。</b>	排他的経済水域は、領海の基点 (海岸線や離島など) から200海里の範囲に設定されます。日本は四方を海に囲まれた島国であり、沖ノ鳥島や南鳥島といった遠方の離島を多く有しているため、それらを中心とした広大な水域を確保できています。統計上も、日本は国土面積に対する水域面積の割合が他の大陸国家に比べて突出して高いという特徴があります。
問7	<b>答え 2</b> <b>排他的経済水域</b>	国が主権を持つ「領海」の外側に設定される水域で、経済的な資源の管理や利用に関する権利が認められています。アルファベットでEEZとも呼ばれます。日本は周囲を海に囲まれた島国であるため、この水域の面積が国土面積に比べて非常に広いという特徴を持っています。
問8	<b>答え 1</b> <b>与那国島</b>	日本は四方を海に囲まれた島国で、その領土の端にはそれぞれ象徴的な島が位置しています。沖縄県に属する与那国島は、日本で最も西 (西端) に位置しており、天候が良い日には隣国の台湾を望むことができるほど近接しています。これに対し、最東端は南鳥島 (東京都)、最南端は沖ノ鳥島 (東京都)、最北端は択捉島 (北海道) となっています。
問9	<b>答え 2</b> <b>仮説の設定</b>	地域調査では、いきなり現地へ行くのではなく、まず調査テーマを決め、それに基づいた「仮説」を立てることが重要です。仮説を立てることで、現地でもどのような場所を重点的に見るべきか、どのような資料を収集すべきかといった調査の方向性が明確になります。これは単なる当りずっぽうではなく、既存の資料や知識などの根拠に基づいて行われます。